

# 「いのち」の教育実践事例

## ☆朝日町の実践☆

(西五百川小・宮宿小・大谷小・朝日中)

生命の継承の  
大切さに  
関する教育

### — 「いのち」について多様な視点からの学びを通して —

町内小・中学校の児童・生徒が合同・連携しながら計画的・継続的に一人ひとりの大切な「いのち」について学んでいます。「性に関する情報（正しい判断）」「思春期の心と体」「性の多様性」など多様な視点からアプローチすることで自分事とする実践事例です。

### ○ 「思春期の心とからだ ～ おとなになっていくために ～」の実践 (西五百川小学校・宮宿小学校・大谷小学校)

- 山形県立中央病院産婦人科専門医である丸山真弓医師をお招きし、町内5・6年生が合同で思春期の心とからだ、妊娠の仕組みと出産、LGBTやSNSを通じた被害など多様な視点から自分自身の2次性徴といのち・健康について真剣に振り返る場となった。
- 次世代へ「いのち」をつなぐための働きがまさに今自分の体に起こり始めていることと、その現象や生命誕生について、専門の先生からのわかりやすい資料をもとに学んだ。また、心身の成長のみならず、現代的な課題となっているSNSを通じた被害について具体的に知ること、心配事や悩みがあるときには身近な人や相談機関を頼ることができることを教わり解決の幅を広げることができた。
- 性的少数派の人たちが10人に1人いること、多様な少数派の人に優しいシステムを構築することが大多数の人にも優しくなること、みんなが楽しく優しく暮らせる社会を作ることに関心を持ち、自分の意識が大きく影響していることを感じた。

### ○ 知ってほしい「性」と「生」の実践 (朝日中学校)

- 井上聡子医師より月経前症候群やSOGI（性的指向・性自認）など、小学生対象より深い内容について学ぶことで、生徒が自分の体に対する不安を相談する窓口を広げ、安心してこれからの社会を生きる力を高めることができた。

「生まれてきてくれて、大きくなってくれて本当にありがとう！」  
と知っている人がそばにいるよ。



小さくても意外と重いな。いのちの重さを感じるね。



いろんな人がいて良いと聞いて、まずは相手を知ること、分かり合うことを大切にしたい。

